頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
—アジア・アフリカ持続型生存基盤研究のためのグローバルプラットフォーム構築—
報告書

マウドゥーディーの出版活動と思想
—パキスタンにおけるイスラーム復興とウルドゥー語—

派 遣 者：須永　恵美子
派遣期間：2013 年 3 月 1 日～3 月 23 日
派 遣 先：イスラーム党本部図書館（パキスタン）

キーワード：パキスタン，マウドゥーディー，出版，ウルドゥー語，イスラーム復興

1. 研究課題について

派遣者の研究は，パキスタンの国語とイスラーム思想を担う出版文化がどのように拡大してきたか，宗教家マウラーナー・マウドゥーディー（1903-1979）の書籍を題材に，その史的展開を追うものである。マウドゥーディーは20世紀中盤にパキスタンで活躍したイスラーム思想家・政治家であり，150冊以上のウルドゥー語の著作を残している。具体的には，マウドゥーディーが出版物をどのように使い，何を広めてきたのかを問うため，宗教書を例にそのモノと思想コンテンツを明らかにする。さらに，宗教と言語がどのような関係にあるのか，ウルドゥー語の単語の選択をアラビア語，ペルシア語の関係性から実証する。以上の三段階を経て，ウルドゥー語のメディアに乗るイスラームの性質を問うことが，本研究の目的である。

2. 派遣の内容

パキスタン・ラホールのイスラーム党本部図書館を訪ね，2013 年度に計画している臨地研究についての打ち合わせを行った。

イスラーム党はマウドゥーディーが 1941 年に創設したパキスタン最初の宗教政党である。受入担当研究者である元パンジャーブ大学ラフィーユッディーン・ハーシュミー教授とは，政党本部構内で面会をし，派遣者のこれまでの研究経緯や，今後の調査予定などについての説明を行った。

その上で，派遣者の研究計画について話し合い，受け入れ体制について確認した。同教授は渡航者の研究分野であるマウラーナー・マウドゥーディーの出版物に詳しく，研究に必要な資料の所在や，パキスタンにおける研究状況などについて意見を頂いた。また，渡航者の研究成果のウルドゥー語での発表な

写真 1: 政党本部構内

どについても，次回の滞在中に進める方向で調整を行った。

3．派遣中の印象に残った経験や体験

今回の派遣では，これまでイスラーム党本部を訪れた際には見ることのできなかった，いくつかの内部団体を訪れることができた。

まず，女性組織である。本部構内の一角に塀で区切られたエリアがあり，この中に政党の女性組織本部と，女子校，女性用ゲストハウス，女子学生寮があった。派遣者は，この女性組織本部の客室に滞在し，女性組織に出入りする党員や，女子学生寮の生徒へのインタビューを行った。女性組織は，党員の中で女性に関する啓蒙や，教育活動を行う団体である。女性組織は，中庭を囲んだ2階建ての建物で，政党本部構内に住む女性らの憩いの場所ともなっていた。また，女性組織本部内には，パンジャーブの村出身で，病院での手術のためにラホールに短期滞在している女性客などが寝泊まりしていた。

次に，学生組織である。派遣者の滞在中，学生組織が主催した集会に参加することができた。これは，政党本部に隣接するパンジャーブ大学法学部講堂で開かれたもので，ジャーナリストや政党本部役員らがゲストスピーカーとして迎えられていた。大小を含め，学生組織の主催するこのような集会はいくつもあるそうで，出席者は男子学生が大半であったものの，女子学生もかなり多かった。会場は立ち見が出るほどに聴衆が溢れており，テレビカメラや新聞記者が入り，その組織力を確認した。

この他にも，政党事務局本部構内にある海外局を訪れ，海外局長であるアブドゥル・ガッファール・ハーン氏より，局の活動などについてインタビューを行った。海外局には，バングラデシュ，アフガニスタンなどの担当者が，各地の派遣員やメディアからニュースを収集し，新聞やニュースレター，インターネット記事などを通じての発信を担当していた。

写真 2: 政党女性組織本部入口

写真 3: 政党学生組織がパンジャーブ大学構内で行った集会の様子

写真 4: 政党海外局長との面会の様子

4. 目的の達成度や反省点

今回の派遣の反省点としては，図書館の蔵書数などの統計資料を収集できなかったことが挙げられる。同図書館は，派遣者が研究対象とするマウラーナー・マウドゥーディーの書籍や雑誌を多く所有していることは明らかになったが，担当の司書官が不在であったため，初版の有無や蔵書数，収集方針などを確認することができなかった。これは次回の派遣での課題としたい。

2013 年度に向けての研究環境の確認と，現地での人脈形成，および協力体制の確保という目的は概ね達成された。

5. 今後の派遣における課題と目標

派遣者は，2013 年度に再び政党本部図書館での臨地研究を計画している。この研究の主眼は，政党本部図書館における資料調査にあり，日本国内では入手困難な初期のマウドゥーディーの著作と，雑誌の初版の収集に重点を置くこととする。また，今回の派遣で構築した人脈をもとに，政党本部構内の出版部と書籍販売部，本部に隣接する複数の私設書店において，出版物の調査を行う。特に，重要な宗教書の再販を手がける私設書店の調査を行うことを課題とする。

さらに，ラホール市内の他大学や，イスラマバード国際イスラーム大学，カラチの政党支部へも積極的に訪問し，パンジャーブ大学オリエンタル・カレッジウルドゥー文学部タバッスム・カーシュミー教授（ウルドゥー文学，言語学），イクバールアカデミー理事長ムハンマド・スヘイル・ウマル教授（イスラーム学），元カラチ大学教授モイーヌッディーン・アキール教授（歴史学）らとの意見交換，および学生らと交流をすることにより，議論の精緻化を図ることを目標とする。